

平成27年度文部科学省委託  
「幼児教育の質の向上に係る推進体制等の構築モデル調査研究」



## 幼児教育・保育の質向上推進事業 平成27年度 研修実施報告書







## はじめに

舞鶴市では、少子化が進む中、「生涯にわたる人格形成の基礎を培う乳幼児期」の大切さ、そして、その時期の子どもや保護者と密接に関わり、その成長に寄与する「保育者」の重要性に注目し、平成25年度から、舞鶴保育園長会の協力を得て、公立と私立の保育所が共に学ぶ「保育の質の向上研修」を実施してきました。

日々の保育や教育について、市全体で学ぼうとしたきっかけは、「保幼小連携」の活動の中で、元となる日々の保育や教育の重要性を再認識した現場の先生達の声です。

このため、「保育の質の向上研修」では、「子どもを主体とした保育」や「保幼小連携」、そして可視化の手法「記録・ドキュメンテーション」について、保育所全園を対象として学ぶ機会とし、講演会や公開保育、グループワーク等様々な研修を行ってきました。

研修を通して、乳幼児期の大切さ、そしてその育ちや学びをつないでいくことの大切さを認識する中、本市が策定した舞鶴市教育振興大綱では、「ふるさと舞鶴を愛し 夢に向かって将来を切り拓く子ども」を育てるため、「0歳から15歳までの切れ目の質の高い教育の充実」を基本理念としています。

なかでも、「0歳から就学前の乳幼児期は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な時期であるため、幼児教育の充実をしっかりと取り組み、小学校や中学校へつながる教育の充実を図る」こととしています。

乳幼児期は、発達段階に応じた豊かな遊びや生活・体験の中で、小学校以降の学びや育ちの土台となる好奇心、探究心、社会性など「学びに向かう力」が育つため、保育・教育の質の向上や保幼小連携の研修など、乳幼児教育の充実に向け、さらに取り組みを進めることとなりました。

そこで、文部科学省から平成27年度「幼児教育の質向上に係る推進体制等の構築モデル調査研究」の委託を受け、「自治体における幼児教育の推進体制の在り方」及び「幼児教育に係る教職員の

養成、研修等の在り方」について検討することとなりました。

研修事業では、これまでも「保幼小連携」の一部で、保育所と幼稚園と小学校と一緒に学ぶ機会を設けてきましたが、今年度は対象を拡大し、公立・私立だけでなく園種や校種も越えて、共に学ぶ研修体系へと発展させました。

また、「乳幼児教育」には、保育所・幼稚園・学校だけでなく、家庭や地域など、子どもたちが生活するすべての場において行われる教育が含まれます。

乳幼児期における子どもの学び・育ちの特性を踏まえ、「乳幼児期の終わりまでに育ってほしい子どもの姿、乳幼児期に大切にしたいこと」を、子育ての第一義的責任を有する保護者と共に、市民全体で共有し、家庭・地域・保育所・幼稚園・学校・行政等それぞれの役割を認識したうえで、連携しながら取り組みを進めていくことが必要となることから、その指針となる舞鶴市乳幼児教育ビジョンを策定することといたしました。

本報告書は、主に研修事業についての取り組みをまとめたものです。研修にあたっては、引き続き、「全体及び子どもを主体とした保育・ドキュメンテーション」について、神戸大学大学院准教授の北野幸子先生に、また「保幼小連携」については鳴門教育大学大学院教授の木下光二先生にご指導いただきました。大変お忙しい中、本取り組みに多大なご尽力をいただきましたことに深く感謝いたします。

公私立・園校種を越えて研修に参加いただきました保育者・教員の皆さんが工夫しながら実施された取り組み、実践して感じられた成果や課題をここに記しました。今後も引き続き、乳幼児教育の推進に努めてまいりたいと思いますので、ご支援ご指導いただきますようお願いいたします。

## 1. 行政部署の連携

研修や乳幼児教育ビジョンの策定に係る事務を進めるうえで、行政においても保育所の担当である市長部局と、幼稚園や小学校・中学校の担当である教育委員会とが連携して事業を行いました。

保育者・教員が参加・理解しやすいもの

とするため、担当職員は、現場の経験を有し、乳幼児教育の専門職である保育士（市長部局）や指導主事（教育委員会）と両部局の事務職とが連携し進めていきました。研修では、「子どもを主体とした保育」の司会・進行を保育士が、「保幼小連携」を指導主事が行いました。両者は、講師と公開保育・授業を行う園や学校とをつなぐ役割も担い、講師のこぼれを伝えたり、実施方法についての説明や相談に対応したりするなど、公開や発表に向けて公開園・校のサポートを行い、実施される方々と一緒になって進める体制をつくりました。

保幼小連携については、小学校教諭による小学校教育研究会生活科部とも連携し、公開の他にも、同部の夏季研究会の機会を活用して、合同の研修会を開催しました。日々多忙を極める保育者や教員を対象とする研修については、新たな事業の追加は難しく、これまで実施されてきた事業との合同開催が効果的であると考えます。

また事業の実施にあたっては、全体的な取り組みとなるよう、各園・校とのやりとりだけでなく、園長会や校長会を通して実施しました。

## 2. 効果と課題

研修では、のべ約700人以上のご参加をいただきました。乳幼児教育ビジョンの策定にあたっては、懇話会に保育所・幼稚園の園長会、作業部会に保育者・教員のご参画をいただきました。研修やビジョン策定に関わった保育所・幼稚園・学校等の関係者のアンケートから、その効果や課題を考察します。

(P. 29 参加者アンケートより)

### (1) 研修について

研修事業は、いずれも公開を中心に行い、実施園以外の保育所、幼稚園、小学校、中学校に参加を呼びかけ、公私立・園校種の枠を越えた、共に学ぶ研修体制の確立を目指しました。また、単なる公開だけにとどまらず、カンファレンスやグループワークも取り入れるなどして、参加者にとって多くの学び、気づきが得られるようなものとなるよう、研修内容や手法について研究・検証を行いました。

さらに、遊びや生活の中で育まれる子どもの発達や学びを可視化する「ドキュメンテーション」等の研修・研究も行いました。保育者や子どもの振り返りと情報共有による質の向上を図るとともに、家庭や地域へ発信することで「乳幼児期の特性」や「質の高い乳幼児教育」「保育者の取り組み」等に対する理解を促す手法の検証を行いました。

◇…………アンケートより…………◇

### ＜公開保育・授業の有効性＞

「この数年で、自園も含め保育はかなり各園変化している。公開することで、保育の見直しや質の向上にもつながっているのでは。」/「子ども主体の保育をするにあたり、保育士としての子どもとの関わりについて考えさせられることが、研修を受けたり、公開する中でとても多かった。実際にやってみて経験することで、自分の勉強にもなるなと改めて思った。」/「公開保育をされた園が、自分達の保育を振り返り、見直されていく中で、子どもの興味・関心をもとに、保育をされ、主体性を大事にされていることが、よく分かった。大変だと思うが、がんばっておられること、保育士間でも共有できるようされていることを感じた。」/公開保育をすることで、指導案の中での言葉(表現)の使い方、ねらいと評価の立て方、環境構成の仕方等を職員間で共通理解し、考え合うきっかけとなっている。」/「公開保育を受けたことで、良い部分も悪い部分もそれぞれ教えてもらい、これからの保育に対する見通しがつきやすくなった。」/「他園の方々に見ていただくことで、改めて日々の保育を職員全体で考える良い機会となった。」/「公開保育を受けて、改めてどんなことを考えて保育していたか、子どものことをどれだけ見れていたか知ることができた。」/「舞鶴市内の多くの保育園・幼稚園が、子どもを主体とした保育に取り組んでこられたことが分かった。乳幼児期の発達の特徴に適した教育・保育を目指して公開保育がたくさん行われたことは大切なことだと思った。」/「公開保育をしたことで、園の保育を見直すきっかけになった。また、他園の保育を見せってもらうことで講義を受けるより学ぶことが多かったように思う。」

### ＜他の園と共に学ぶ効果＞

「自分にはないアイデアや、子ども主体で進めるための工夫、保育を進める中での課題など、他園の内容を知ることができ、勉

強になった。ドキュメンテーションについては、いつもたくさんの方の様々な見せ方を実際に見せてもらえるので、次はこうしてみよう!と参考にさせてもらっている。」/「ドキュメンテーションに初めて取り組んだ時には、どうすればいいんだろう、という感じで手さぐりで始めたが、他の先生方に「これ良かったね」「こうすればもっと良いね」とたくさんアドバイスなどをいただけ、とても勉強になった。」/「他園の取り組みを聞き、子どもたちの姿が、子どもを主体とした保育を通して変化していく様子も感じられた。」/「当初消極的だったところも公開を引き受けられたり、ドキュメンテーションを作成することにより、講師の指導のもと前向きに質を向上されていこうという空気が感じられ、とてもうれしく思い、自分もがんばろうという気になった。」/「グループワークなどがあると様々な意見が聞けてよかったので、今後も続けてほしい。」/「ドキュメンテーションがどの園もすごく変わってきていると感じた。自園でも保育の過程プロセスが少しずつ書けるようになってきたと思う。」

◇……………………◇

公開保育については、最初は不安の方が大きかったようですが、研修への参加や、実際に公開してみるという体験を通して、不安が徐々に取り払われ、やってみると、講義等による研修のみより、公開保育を伴う研修の方が勉強になる、との声が聞かれました。公開により、実際の自分の保育に直結する課題を捉えることができ、変化へとつながりやすいと思われます。

また今年度から、参加者が年齢ごとに分かれ、ドキュメンテーションを通して保育の内容を検討するグループワークを実施しました。

ある場面を切り取った写真と子どもたちの言葉や行動を記したドキュメンテーションでは、その場にいなかった人も同じ場面について語り合うことができます。アンケートにもあるように、園や経験年数も様々な人が意見を交わすことができ、自分だけでは気づけなかった、遊びの中の気づきや学びを見とることができるようになってくるなど、質の向上研修に有効であると実感しました。

また、他園と共に学ぶことにより、最初はどのようなものかイメージがわからず、取り組みにくいことも、他園の取り組み、そして変

化していく様子を実際に見ることにより、イメージがわき、自園でも取り組もうという動きにつながっていく様子が伺えます。

さらに他園も同じような悩みを抱えながら、取り組まれている姿を見ることで、自分たちもがんばろうという気持ちになったり、やり方をまねる、直接的にアドバイスをもらうなどして、自分の保育を見直し変えていくアイデアを得たりと、同僚性が育まれていることが感じられます。またその同僚性が、学びやすい環境をつくっているように思います。

◇……………………◇

### ＜継続実施の必要性＞

「3年前には今ひとつ分からなかったことが、今ではこういうことなのかな?とイメージを持つことができたので、今からがスタートかなと思う。自園でよく考えて実践したいと思う。」/「何度も研修を受けさせていただく中で、何度も大切なことに改めて気づかされ、頭に入っていく、昨年度よりも今年度…と年を重ねるごとに分かってきたように思う。」/「それぞれの園で取り組まれたことが知れ、幼保小が連携してこれからも続けていくことが、子どもの学び・保育につながっていくと感じた。また、ドキュメンテーションも繰り返し書き続けることが大切。」

### ＜個から園全体での取り組みへ＞

「まだまだ勉強不足だと感じた。なかなか変わっていけない自分も感じ、しんどさもある。それを他の職員に聞いてもらって不安を解消しながら努めていきたい。」/「まだまだ勉強中で今後も指導を受けたことを活かしていけるように園全体で取り組みたいと思う。子ども主体の保育というのは難しいが、子どもを第一に考えた保育をしていきたいと改めて思った。」/「保育の質向上推進事業に取り組む、自園の中でもさらに保育について考え、話し合う機会が持てた。これに終わらず、この取り組みを続けていきたい。」

◇……………………◇

平成25年度の研修開始から、やり方は少しずつ変えながらも、基本的なテーマは同じ内容で継続して行ってきました。すると、最初は分からなかった、または実感のなかったことも、繰り返し聞く、公開保育を見た後で聞く、または自園で取り組んでみてから聞くことにより、理解できることがあるようです。このことから、研修はある程度継続した取り組みが必要で、継続実施

は理解及び知識・技能の定着に効果的であると考えます。

## (2) 報告会について

研修事業の最後には、公開を行った保育所・幼稚園・小学校等が取組内容や成果・課題などを報告する実践報告会を開催し、約150人が参加しました。また、研修事業に参加した保育所・幼稚園・小学校の研修成果をとりまとめた実施報告書を作成し関係者に配布します。

◇……………◇

### ＜報告会～参加者による振り返りの効果～＞

「それぞれの園で、子どもたちが主体的に活動するための環境や素材、保育士の関わりなどを見直し、改善ができていて、更によりよくするためには何を考えていることを、全体で共有できたことがよかった。」/「どの園も子どもを主体とした保育をしていて、いろいろなアイデアがあると思った。ドキュメンテーションでは、年齢にあった書き方をして、保護者の方に伝えていけばいいと分かった。」/「他園の保育やドキュメンテーションなど、日々の保育と重ねながら聞くことができ勉強になった。写真もあり分かりやすかった。」/「他園の報告を聞くことで、自分の園や立場に置き換えて、こんな見方がある、こんな方法もあると気付くきっかけとなった。ドキュメンテーションなど続けていくことで自分の力になることや、より良い保育の見直しになることが、まとめの報告を聞き、さらに感じた。つい自分は『こうしなければならない』と考えがちだが、その考え方を意識して問い直していくことで、もっと子どもが主体的になる、自分の視野が広がるのではと思った。保幼小連携の話も聞くことができ、聞くほどにその重要性や必要性を感じた。」/「たくさんの報告を聞いてよかった。それぞれの園で、子どもを主体とした保育とは、どのようなことなのか、考え、工夫されている様子が分かった。自分の園、子どもたちの姿をしっかりと捉え、実践していきたい。」/「各園それぞれの報告を聞いて、また新たな刺激になった。子どもを主体とした保育、本当に大切だと思う。これからも子ども一人一人を大切に保育したい。」/「幼小連携の大切さを改めて感じた。発表の機会を与えてもらうことで、私達自身の意識が高まった。幼稚園も小学校も連携のおかげで子どもが更に成長したように思う。」/「子どもの姿・実

践を通しての報告を聞くことができ、いろいろな園での活動、それによる子どもの成長、主体性から考えた点などの結果を知り、私自身学ぶことがたくさんできた。」/「公開保育では、どの園もとても楽しく、子どもたちの表情が生き生きしていたのが印象的だった。良い部分ばかりだったので、ぜひ自園の保育にも取り入れたいと思った。」/「それぞれの園で工夫されたところ、取り組まれたところを、本園の実践と見直し、研修を進めていきたい。」/「保育園、幼稚園、小学校、市の方と、それぞれの立場からの話を聞かせていただき、より分かりやすかった。今後さらにより活動となっていけるよう園でできること、自分ができるところをしっかりとしていきたい。」/「1年間の保育のまとめとしてお聞きすることで、自分自身の振り返りになり、自分の足りなかったところが明確となった。」/「保育の質の向上で、引き続き他園の保育実践など、報告し合える場があると良い。」

◇……………◇

各研修時にも、カンファレンス等を行っていますが、改めて実践者からの報告を聞くことで、振り返りになり、認識しやすいという意見が多くありました。

公開の研修は、平日の保育や授業時間と重なるため、参加できない人も多く、土曜日の午後に行う報告会では、そういった人も研修の内容が分かり、勉強になるという効果もあるようです。

また、発表者自身も、振り返りまとめることで、意識が高まるという意見もありました。

この報告会での発表や、報告書への事業報告の様式等については、公開園・校に集まっただき、話し合っただけで決めました。報告時に、事務局の方で用意した写真を投影したところ、写真があつて分かりやすいという意見もありましたが、見せ方やタイミングについて見づらかったとの意見もあり、今後も参加者の皆さんの意見をお聞きしながら、分かりやすい、効果的な研修や報告会の開催方法を検討していく必要があります。

◇……………◇

### (3) 今後の研修について

「保・幼・小の枠を越えた共有意識、互いの理解が深まるような研修を求める。」/「子ども主体の保育の難しさを感じているので、他園の環境をもっともっと見て、お互い

に勉強していきたい。」/「他園とエピソードやドキュメンテーションを見せ合ったり、交流する場を持つことで学び合っていきたい。」/「もっと他の園の保育を知りたい。保育園だけでなく幼稚園、小学校での子どもの様子、どんな育ち方をしているのか知りたい。」/「情報交換できる機会(公開保育やカンファレンス等)がたくさんあればうれしい。」/「さらに多くの方が参加し、同じ気持ちで保育していけたらうれしい。」

◇……………◇

(1)の「研修について」の意見にもあるように、公開保育やカンファレンス、そして他園と共に学ぶことの有効性を感じておられるため、今後の研修体系についても、他園との学びや公開・カンファレンス等による実施を希望される意見がありました。また、保育所・幼稚園だけでなく学校とも一緒に学ぶ機会が欲しいとの希望が上がっています。

学校との連携の必要性については、次のような意見もありました。

◇……………◇

### ＜小学校との連携＞

「保幼小連携、なかなか難しい部分もあるが、できるところから進めていきたいなど改めて感じた。特別なことではなく継続して取り組めるようになっていきたい。」/「研修や保幼小連携の取り組みを保幼小の先生達と一緒にすることで相互理解が進み、子どもの成長につながると思う。」/「保小連携についてよくわかった。保育園・幼稚園だけでなく、小学校の方からの報告もあり分かりやすかった。ビジョンにもつながっていくことでもあるので、みんなで子どもたちを育てていくことを意識していきたいと思った。」

いろいろな立場の人の話が聞けることや、共に研修することの大切さを、参加者は感じておられます。今年度の研修では、幼稚園や小・中学校にも呼びかけ、参加いただきました。公開等にも取り組んでいただいた幼稚園や学校もありました。ただ初年度でもあり、事務局の案内等にも課題があり、数は少ないものとなりました。しかし参加いただいた学校等からは、

◇……………◇

「公開授業を通して、年長児、1・2年生それぞれの発達段階を理解することができ、その後の成長につながった。」/「公開保育により、保幼で子どもたちが主体的に活動したり、気づきを持ったりしていることや、先生

達が意図的に環境設定されたり、声かけをされたりしている姿に学ばせていただいた。それらの育ちを小学校でも伸ばしていきたい。」／「保幼小連携を今後も進めていくために、小学校での年間カリキュラムに取り組むことが大切だと思う。そのことにより、より連携が強まり、継続していくことができると思う。小学校では、1、2年生の担任だけではなく、学校全体で保幼小連携を広め、理解していきたいと思う。」／「乳幼児期の発達の特徴が分かり、児童期の教育との違いが理解できた。幼小の連携を進めるためにも、交流や参観を通じて、共に考え進めていくことが大切だと思った。」／「小学校教員が聞いてもとてもためになる。特に小学校入門期では、大切にしたいことがあった。」／「北野先生のお話を小中学校でも聴かせていただきたい。0歳からの教育の大切さを学びたい。」」

◇・・・・・・・・・・・・・・・・◇

と、研修の効果を実感され、学びたい、広めていきたいとの意見がありました。

今後は、呼びかけの方法や、それぞれの職員派遣の方法等を研究し、参加しやすい研修の開催を検討する必要があります。

研修内容についても、現場の保育者・教員の研修に限らず、園長や校長を対象とした研修やリーダー等を育成する研修も検討する必要があります。質の向上に必要な人員確保ができるような体制が必要であり、特に私立については、そのための費用についても懸案事項です。これに関連する次のような意見がありました。

◇・・・・・・・・・・・・・・・・◇

「学ぶことも多いが、研修への参加や園内で研究する時間など難しい現実もある。このあたりも変化すると、もっと意味のある質の高い保育が実施できるのではないだろうか。」／「どの園も同じ方向で保育にあたることができる。保幼小中の連携がもっとできたらいいと思う。保育園も幼・小・中と同じくらいの待遇であるべきではないか。給料に差がありすぎる。」／「どの子も幸せに育ていけるよう力をつくしたい。ビジョンを実行するうえで、人的環境の大切さ(現場とのギャップ)をシステムとして確立してほしい。」／「(講師講評に対する意見)国の単位で保育の方にもお金がおろるよう活動され、すばらしいと思う。全国的に国として取り組むべき。」／「保育の大切さのお話を聞いて、勉強になった。保育の方にも国が力を入れて、いい保育ができればいいなと思った。」」

◇・・・・・・・・・・・・・・・・◇

ビジョンや研修に賛同し、質の高い乳

幼児教育に取り組むためにも、そのための職員体制の整備や強化を求める声があります。国においても、質の充実のため、研修に必要な費用が一部盛り込まれるなどの取り組みが行われています。しかし、専門職として日々の振り返りや園内研修等を行う時間が十分に確保できる状況ではなく、また、全国的な保育士不足もあり、研修時間の確保が難しい状態です。保育の振り返りや研修時間を確保するための代替職員の確保等が望まれています。この問題は本市だけのものではなく、全国的なものでもあり、現場に近い市として実情を報告しながら、国や府とともに研究を進め取り組んでいく必要があります。

#### (4) 子どもや保護者、保育者の変化

◇・・・・・・・・・・・・・・・・◇

今年度、研修を受けて、自園の保育に活かされたこと

→それによる、子どもや保護者の変化、反応等のエピソード

#### <保育・環境等>

◇子ども主体の保育をするために、自分の保育、子どもへの関わり方など、見つめ直すことができた。保育者全員が意識することで、少しずつ保育が変化していると思う。  
→子どもが明日はこれをしたい、これをしようと楽しみに登園する姿があったり、のびのびと自由に遊べることで子どもが生き生きと登園しているという保護者の声もあった。

◇環境について考え、保育者同士で意見を出し合い整えていった。

→(子どもが)自分でしたい遊びを自分たちで用意して工夫して遊べるようになった。

◇子どもの自主性にまかせた保育でも、しっかりと保育士のねらい、意図はおいておく。

→「あれしたい！！これしたい！！」と自分のしたいことをしっかり伝えたり、どうすればよいか自分で考え行動する子が増えてきたように思う

◇刺激を受け、やってみようと保育の幅が広がった。

→育ちに関する保護者のコメントが増え、子どもたちは自分のしたいこと興味を深めようとする姿が増えた。

◇環境(保育室・園庭等)を見直した

→(子どもが)自分から環境に働きかける姿

がよく見られるようになった。

◇子どもと考える一緒に作ることや、楽しむことを意識できるようになってきた。

→保護者の方が保育に興味を持ってくれ、家でも、子どもと一緒に保育の内容を深めてくれるケースが何度もあった。

◇今まで以上に職員間で、今子どもたちは何に興味あるのか、その遊びをするには、どんな環境を整えたいか、子どもにとってどうあるべきか、話し合う機会が増え、共通意識で考えていけるようになってきていると思う。

→「先生これしていい？」と聞いていた子どもが多かったが、「これがやりたい」「こうしたい」と「こう思う」という自分の思い、したいことを明確に伝えられるようになってきている。生き生きと活動している子どもの姿を見て、保護者も嬉しそうである。子どもの成長を保護者と話し、共感しあえることが増えてきた。

◇子ども主体の保育について、年々理解を深めることができた。また今年度は指導案にも取り組んだ。職員同士で研修もしたが、まだまだこれから理解を深めていきたい。

◇公開保育を行うにあたり、日々の保育のあり方や子どもの発達等考え直すよい機会になった。

→(子どもが)好きな遊びを選んだり、自分達で考えて遊ぶことができるようになってきた。

◇自分の意識が少しずつ変わってきた。子どもを見る視点が変わり、他の職員と話す機会が増えた。

→「なんでなん？」「なんでそれするの？」と活動に素朴な質問や疑問を伝える子も増え、納得して遊びや活動に入っていく姿が見られるようになっていった。

◇自分ではこれでいいのかな？と不安になることは保育の中で時々あり、それを他の先生方に見ていただいたり、意見をいただけたりする機会を多く持て、自分の保育に活かすことができた。

◇園児が主体的に遊べる環境づくりに努めた。自ら遊びを発見したことを園全体に広められた。自然のものを常に部屋に用意した。  
→大変喜び、感動してもらった。

◇子どもが主体的になる保育というものが、日々様々な活動、生活において、取り入れられるように、環境、保育者自身の行動に気をつけていった。

→子どもが主体になることで保育者が主になることが少なくなり、子ども自身で意見を言って遊び・生活を進めていったり、他の子どもたちとそれぞれが主体となって考えを言って、生活が進み、見守ることが多くなった。

◇日常の遊びだけでなく行事も子ども主体で取り組んでいるが、少しずつ出来ばえではなく過程やその中の苦労や子どもの成長に気づいてもらえるようになってきた。

◇意識して、現在の子どもの様子や発達をたより・日誌などで(保護者に)伝えた。また行事では、保育所の意図するところを何度も事前に伝え、子どもたちが主体的に遊んだり生活している素晴らしさを勉強した。  
→(保護者の)行事を見る目が変化してきて、見栄えだけでない子ども同士の育ちやねらいに沿った子どもの様子をみてくださり、アンケートに返していただけて、大変うれしい思いがあり、今後への意欲となった。  
(P.7参照)

## <ドキュメンテーション>

◇子どもを見る視点、保護者にこの成長を伝えたいから、の思いを持って子どもと関わったり、ドキュメンテーションに表すことができるようになり始めた。

◇必要性、書き方などを知れ、改めて日々の保育を見直せた。  
→ドキュメンテーションを見て「こんなことが出来るんや」とビックリされていた。言葉だけでは伝えきれない子どもの姿を知ってもらえた。

◇クラスの保育士間(担任同士)の連携が取れた。保育の振り返りができた。  
→(保護者が)玄関に貼り出してあるドキュメンテーションを気にして見てくれるようになった。写真をのせることで興味・関心につながっていった。

◇クラスで話し合う機会が増えた。

◇取り組むことで、子どもたちの姿、自身の保育を振り返ることができた。  
→子どもたちも喜び、子どもの方から「お母さん見て!」「こんなんしたで!」と嬉しそう。

◇何度か書くことしかできず、もっと学んだことを活かしていければよかった。  
→園の玄関に貼ってあることで、保護者の方が興味をもって見てくださるようになり、こんな視点があるんですねという発見もあったよう。

◇書く際の視点が変わった。親に伝えたいことも書くようになった。

◇子どもたちがすることや発言を見守りすぐに答えは出さず、考える時間ができるように声かけをした。  
→こちらから声かけしなくても、自主的に友達同士誘い合って練習する姿があった。またドキュメンテーションを掲示することにより、(保護者から)「こんなことがあったんですね」など結果だけでなく過程に対するコメントも増えたように思う。

◇園内研修が設けられ、同じドキュメンテーションでもいろんな見方、考え方があり、いろんな先生の意見を知ることができた。

◇多々あり。大変だったけれど、自分の保育を振り返り、いい機会となった。楽しい保育の展開があり、これもこの保育の取り組みに参加できたからかなと感謝している。  
→子どもの発言が増え、自分の思いをこれまで以上に言葉にできるようになった。それによって保育も子ども主体のものになってきた。保護者に子どもの成長の姿に共感してもらい機会となった。

◇立ち止まって子どもの学びや育ちまで読まれる保護者の方が増え、そこから親子の会話が増えたり、子どもの育ちなどに気づいてもらうことができている。

◇おもちゃをそろえたり、環境が少し変化した。子どもへの声かけ一つも変えていくことができた。  
→ドキュメンテーションに目を向ける保護者が増えた。自分で考えて遊びを広げていく子どもの姿が見られた。

◇普段の保育の見直しをしたことが大きな変革だったと思う。それを継続する大切さも感じている。ドキュメンテーションでは、自分の保育を振り返るきっかけにもなった。

◇保育士の連携が強くなり、特にクラス担当の保育士との連絡はしっかりしてきた。子どもや保護者の情報交換がしっかりできている。  
→作品展・参観日などにゆっくりドキュメンテーションを見てもらう時間をつくった。保育園での子どもの様子がわかったとの声をいただいた。

◇職員同士の連携がよいと、よい保育ができる。

◇子どもの発達をより見れるようになった。環

境の見直し。保育士の連携を密にしてとるようになった。ドキュメンテーションを作成したことで子どもの育ち、学びが分かるようになった。

→いろいろな体験、経験を通して、子どもの思考力、表現する力、語彙力など、人と人とへかかわりの中で育てている。

◇保育参観や収穫祭・作品展などの行事の時に各部屋に貼り、保護者にゆっくり見てもらえるようにした。

→まだ写真の中の子どもの姿を探す保護者もいるが、文を読んで、感想を伝えてくれる保護者も増えてきた。

◇はじめは書くことにとっても抵抗があったが、書くことで子どもの姿がよく分かるようになった。

◇.....◇

研修を受けただけで終わらずに、実践に活かされたことで、子どもや保護者、そして自分たち自身も変わってこられたことが伝わってきます。

環境や声かけの工夫により、子どもたちが自分たちで考え行動する姿が見られ、そしてそれがとても楽しそうな様子が伝わってきます。その子どもたちの姿の変化に保護者も気付かれています、子どもが生き生きと登園しているなどの感想が寄せられています。

ドキュメンテーションについても、1年前のアンケートでは、「保護者がなかなか見てくれない、自分の子が写っているかだけを気にされる」というような意見が多くありましたが、保護者へどう伝えるか書き方・伝え方を考えられたり、行事を活用してゆっくり見てもらえるようにされたり、おたよりを活用されたり、どういう思いで行っているかを発信したり、とそれぞれに工夫をされ、「見てくれるようになった。そこから保護者と話しができた。保育内容が家庭の生活につながった。結果だけでなく過程も見えてくれるようになった。子どもの育ちに気づいてくれるようになった。」等の変化が見られました。

ドキュメンテーションや子どもの姿を通して保護者と会話を交わされたり、アンケートを利用して保護者の感想を集められたりする中で、保護者の変化を保育者が感じられる機会があり、子どもの変化と共にそれが保育者のやる気へとつながっていることが分かります。

また、保育者同士のつながりにも役



立っているようで、園全体で子どもを見ていく様子が見られます。

保育者に関しては次のような意見もありました。

「公開保育、ねらいを明確にすること。接続に関しては、そのねらいを共有し、意識し活動・指導をする。保育士同士が保育を語る。保育士も自己発揮できること(職員集団の中で)」

研修では、子どもを主体とした保育や、子どもが自己発揮できているか、その重要性を学んできました。実は、そこに關わる保育者も自己発揮できる環境であることが必要です。子どもを育てるように、保育者も園全体で育てていく、委縮することなく語り合える同僚性の構築が大切です。

現在、保育所・幼稚園や学校では、団塊世代の大量退職等により急激な世代交代が生じ、ベテランの経験・知識をいかに若手へ引き継ぐかに苦慮されているという状況があります。

「(1)研修について」において、質の向上研修にドキュメンテーションが有効であることを述べましたが、その効果は、園内研修においても期待できます。「私はここでこう感じた」「これもいいけど、こんなふうにもできるよね」「こうしたらどうなるだろう」といった他者のアイデアや経験を聞くことができ、職員同士の連携が図れ、経験値を引き継ぐ一助となります。

園内研修の大切さを感じる中で、今後は園内研修の核となる各園のリーダー研修等も合わせて開催していけるよう検討していきたいと考えます。

## (5) 取り組みの発信

日々の業務で大変な中、公私立・園校種の枠を越え、保育者・教員の皆さんが実践してこられたことで、本事業は今年度、日本保育学会の研究対象となり、6月と11月の研修に、日本保育学会課題研究委員会の委員が視察に來られました。また、他市で行われた研究会で発表する機会もいただきました。その報告に対し参加者から、

◇……………◇  
「舞鶴市として取り組んでいる子育てについて、私も1人の保育士として力になっていることに誇りを持って。もっと自分自身勉強して保育を楽しみたいと思う。」/「舞鶴市が

全国に発信していることが多いんだと感じた。乗り遅れないようにするには…舞鶴にいる以上、がんばりたい。」/「舞鶴市の取り組みのすごさを感じた。これからさらに保育の勉強をしていきたいと思う。」/「舞鶴が取り組んでいることがすごいことなんだと改めて感じ、少しでも関わっていることに嬉しくなった。」

◇……………◇  
といった意見が寄せられました。保育者・教員の皆さんが共に学ぼうとする取り組みが評価されていることであり、さらに学ぼうとする皆さんの熱意を行政としてサポートし、共に進んでいきたいと思います。

皆さんの熱心な取り組みを広く伝えていくこと、そして特に園や学校に通っている保護者だけでなく、これから通ってこられる家庭や、子育てを支える地域等、市民のみなさんにしっかりと伝えていくことも、皆さんの活動を支援するうえで、行政として大切な役割です。家庭や地域等への情報発信についても、手法を検証しながら、効果的な発信に取り組んでいきます。

## (6) 乳幼児教育ビジョン

報告会において、乳幼児教育ビジョンの策定にかかる経過報告も行いました(乳幼児教育ビジョン報告 P. 15参照)。ビジョンに込められた思いや、ビジョンを持って保幼小中と連携していくこと、その基盤となる乳幼児期の重要性、そして担う役割について、意識の共有が図られました。報告を聞いた参加者から、乳幼児教育ビジョンに次のような期待が寄せられました。

◇……………◇  
「今までは卒園や卒業でリセットされることが多かったが、0～15歳までの育ちを続いて見守れるようになる。」/「子どもたちのことを大勢の大人が考えるという態勢が素晴らしい環境であり、これからも続けていかなければならない。」/「公私の保育所向上に向けての動きから、幼稚園・学校とつながりが広まり、舞鶴市の資質向上の期待が持ててうれしい。」/「自分たちが勉強してきたこと、大切にしていることが盛り込まれている。共感できるビジョンであるので、このまま続けていってほしい。」/「子どもたちの育てたい力、育てたい心、舞鶴市が一体となって進んで行けるところはとても力強い、期待が大きい。」/「舞鶴での子育てを望む人が1組でも増え、子どもに関心を持って

子育てできる環境も含め生活を整えていくことを期待する。」/「次世代を担う子どもたちが、ビジョンにより、心豊かな人間に育ってくれることを期待したい。自分自身の保育者としての質をもっと高めていきたい。素晴らしいビジョンなので全国に広まるとよい。」

また、  
「ビジョンを作っただけで終わるのではなく、現場の職員全員がお互いに理解できるような場や機会が必要。」/「保育者だけでなく、家庭や地域の方々に知っていただき、みんなで子育てしやすい地域になれば。」

◇……………◇  
と言った意見も寄せられました。

子どもが健やかに成長・発達するためには、まずは家庭が基本となることから、乳幼児教育ビジョンに掲げる内容を家庭や地域等広く市民に周知し、共通理解を図るため、より分かりやすく周知・普及できる手段や方法を検討する必要があります。合わせて、保育者・教員への研修等も行い、その活動を支援していく必要があります。

懇話会と共にビジョンの策定に関わられた作業部会では、公私立の保・幼・小・中の保育者・教員による共通課題についての話し合いや研修を行ったことにより、保育者・教員から、

◇……………◇  
「子どもの育ちや学びは連携しているものであり、校種によってそれを途切れさせてはいけない。引き続き伸ばしていかなければならないということ、みんなで共通認識できたことは大きな成果だと感じる。」/「今後もこのような機会、保幼小中の先生方が交流でき、同じ議題の研修を受け、個々に自覚し、本当に質の高い保育・教育ができること、そして各校・園に持ち帰り、全体に向上できればよいと思う。」

◇……………◇  
といった意見が寄せられ、連携の重要性の認識がなされ、保育者・教員間の同僚性が深まることとなりました。

## (7) 今後に向けて

研修事業に参加しての感想の中に、  
◇……………◇  
「子どもの見方が変わることにより、子どもも変わり、保護者も変わっていく。子どもの幸せのためにさらに自分も頑張っていきたいと

感じた。」/「難しいことだなあという印象を持ちがちだが、そうではないのだということを感じる。どこに視点を置くかによって、子ども主体の保育が進んでいくことを実感した。」/「舞鶴の子どものためにみんなでアクションをおこしていく大切さを感じた。」

◇……………◇

といったものがありました。年数を重ねるごとに、皆さんの意見がより前向きに、より自ら向上していこう、と変化してきていることを感じます。まだまだ十分な研修体制が整わない中、皆さんの熱意に頭が下がります。

また、アンケートの中にこのような意見がありました。

◇……………◇

「日々の保育の中での環境構成の仕方、どこにねらいをもつか、しっかり意識化して取り組んでいくこと、子どもの考えを共に実現してくれる存在で保育士があることなど、とても考えさせられることが多く、難しさも感じた。でも、子どもと一緒に挑戦してみたり、その中でもし失敗してしまっても、その経験も、一つの学びや育ちにつながっていく大切なことだなとも感じた。」

◇……………◇

研修事業についても、乳幼児教育ビジョンについても、完成ということではありません。まだまだスタートであったり、学びの途中であったりします。難しいと感じることも、失敗もありますが、子どもと同じで保育者・教員等にとっても、それは大変貴重な経験となります。

◇……………◇

「感情経験やその他様々な経験が、言葉や人の話を聞く姿勢にもつながっていくことを知り、全ての基礎は乳幼児期の経験であることを改めて感じた。」/「乳幼児期には“教科書がない”というのが印象的だった。目の前の子どもの姿を見て、子ども一人ひとりが主役になれるような保育をしていきたいと思う。」/「同じ保育を行い子どもに接する時でも、自分の意識を変えることで、子どもの見えてくる姿も変わり、声かけや援助も違ってくると思う。」

◇……………◇

感じておられるように乳幼児期は全ての基礎となる大変重要な時期です。日々皆さんが懸命に取り組まれている教育・保育を見つめ直す。それは、今されていることを否定するものではなく、“教科書”や“正解”がないと言われる乳幼児期の教育・保育に取り組むため、専門的な知識や他者のアイデ

アを学ぶことで、幅を広げ、さらに向上していこうというものです。

一人ひとりが少し意識を変えるだけで、様々な変化がもたらされます。一步一步、一緒に考えながらアイデアを出し合い、全体で支え合い高め合えるそんな体制を今後も築いていきたいと考えます。

## (8) 資料：保護者アンケート

最後に、[2. 効果と課題][4]子どもや保護者、保育者の変化](P. 4)

◇……………◇

◇意識して、現在の子どもの様子や発達をたより・日誌などで(保護者に)伝えた。また行事では、保育所の意図するところを何度も事前に伝え、子どもたちが主体的に遊んだり生活している素晴らしさを勉強した。→(保護者の)行事を見る目が変化してきて、見栄えだけでない子ども同士の育ちやねらいに沿った子どもの様子をもとってくださり、アンケートに返していただけて、大変うれしい思いがあり、今後への意欲となった。

◇……………◇

この意見に記されたアンケートから、保護者の感想をいくつかご紹介します。

◇……………◇

「おたよりで全クラスの様子を知らせて頂いたことで、学年ごとでの子どもたちの取り組み方、様子、年齢によっての違いなども感じながら読ませてもらった。それを元に当日の発表を見ることができた。子どもも大きい組みさんの劇を楽しんで見ていたようで、憧れの思いなども育ってくれていればいいと思う。」/「経験したことがもとになっていたのも、イメージもつきやすく、本人はもちろんクラスとしても楽しんで取り組めたことだと思う。楽しかった経験が生かされた題材で良かった。(劇の)絵本が家にもあったので、何度も読みながらたくさんのお話を聞いた。」/「自分で考えた衣装を持って帰ってきて、修正したい所を“こんな風にしたい”と言ってきたため、一緒に考えて子どもの希望する形に仕上げた。個性的な形だったが、本人はとても満足していた。」/「子供達が考え、衣装やセリフも皆で作ってくれたと聞き、先生方のフォローもたくさんあったと思うが、すごいなと感動した。」/「意欲的に取り組み、最後まで頑張ろうとする姿に成長を感じた。帰りの車中で一緒に劇の歌を歌ったり、セリフの練習をしたりと、親としても楽しかった。」/「先生のあいさつでもあったが、発表会となるとどうしても見栄えを気にする

が、子どもたちの意見や考えを十分に引き出していただき、子どもたちが納得する発表会になってたのではないかなと思う。」/「本番まで一生懸命練習したのだなあ、それまでの過程が思い浮かんできた。」/「劇を通して相手の気持ち、相手を思いやる気持ちも芽生えてくれたのかと思うと子どもの成長を感じた。」/「みんなで意見を出して、1つの作品を作り上げていく様子が伝わって良かった。」/「これまでの体験を生かしたとってもすてきな劇だった。子どもたちの感じたこと、考えたことを子どもたちなりに表現し、見てもらう喜びも感じる事ができたのではないかな。」/「“みどころ”を拝見して、その過程がよく分かり本番への期待がふくらんだ。」/「我が子はもちろん小さな時から良く知っているクラスの子供達の成長を心から感じる事ができた。子供をほめたら、本人は小さな失敗を気にしているようだったが、そのことでも成長というか、人間としていろんなことを考えられるようになったと感じた。」/「毎日衣装やセリフのことなどおうちで話してくれた。お友達が何役でセリフはこう、と自分だけでなく劇全体のことが頭に入っていて、当日お休みになったお友達の代わりに代役をつとめた子がいたことにも感心し、納得した。本当にみんなで作りあげた劇だったなあとお友達達の成長に感動した。」/「当日に向けて、完成度も子供達の意欲も高まるような持っていく方を先生方がうまく見つけ指導してくださったなあと感じた。」/「全組とても楽しい劇で年齢によってこもやり方が違うんだと思った。それぞれ一人一人の意欲が見え、子供達で作った劇だと思った。」/「子供達自身で考え作られた劇で、とても感動した。子供達の自信に満ちた顔、セリフの言い回し、笑顔に、そしてそれを見ている保護者の方の笑顔も印象的だった。」

◇……………◇

何度も意識して活動の意図を発信することで、保護者にその思いが伝わり、保護者の園や先生、子どもに対する見方が変化する様子が分かります。

どの園・校も、子どもを主役に、保育者・教員と保護者が子育てのパートナーとして、子どもの成長を楽しみながら、協力し合い共に育っていく、そんな舞鶴の乳幼児教育を目指していきたいと思えます。

平成27年度 幼児教育・保育の質向上推進事業  
研修 講師と内容

指導講師	主な内容
<p>神戸大学大学院 准教授 北野 幸子</p> 	<p><u>プロジェクト型保育</u></p> <p>遊びや生活、身近な自然の中で、子どもたちが興味や関心を抱いていることからピックスを見つけ出し、調べたり、深めたりしてさまざまな活動に発展させるプロジェクト型保育について</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・子どもたちの主体的な活動を支援するため、保育士が、子どもの興味や発見、疑問を見つけ出し、さまざまな活動へ発展させる力や、遊びたくなる環境づくりをするための手法</li><li>・保育の中で子どもたちがどのように育ち、何を学んでいるかを保護者に伝えるドキュメンテーション等の記録手法</li></ul>
<p>鳴門教育大学大学院 教授 木下 光二</p> 	<p><u>保幼小連携</u></p> <p>保育所や幼稚園と小学校の連携を深めると共に、さらに子どもの育ちや学びを小学校につなげるための連携活動について</p>

## 舞鶴市の幼児教育・保育の質向上推進事業に関わって

神戸大学大学院 准教授 北野 幸子

舞鶴市の研修に携わらせていただき、3年が経過しました。

本年度は、引き続き、全体講演を皮切りに、公開保育、実践検討会、ドキュメンテーション研修、報告会を実施しました。加えて市の次世代育成に携わる専門職そして市民の方々と連携し、乳幼児教育ビジョンを作成することができました。

3年間、乳幼児期の発達に適した保育とは、遊びと生活を中心とした保育であり、子どもの好奇心や探求心、あこがれを起点とした、子どもの主体性を尊重した保育であり、その確認を繰り返し行ってきました。今年度は、その浸透を強く感じることができました。

公開保育は、当初不安が大きく、現場からは躊躇される様相がみられましたが、本年度は希望園も増加し、新たなに挑戦して下さった園もありました。希望して下さったのに日程的にお邪魔できない園もありました。保育実践の質の維持と向上は実践そのものをひらき、個人ベースではなく集団で省察し多様な視点を得ること、多様な援助の技術と方法を習得することにあると思います。自園の保育、自分のクラスの保育ではなく、共に保育実践を省察し、よりよい保育を一緒に考えるという試みが地域で園種公私を越えてさらに広まったように思います。

公開保育にあたり、当日の指導案作成にも今年は力を入れてくださいました。特に、指導案作成において構造的に思考することや、「評価の観点」という概念をもつことは多くの園で新しい試みでありました。にもかかわらず、熱心に新しい記録の方法に興味をもって、多くの質問を投げかけてくださって、構造的な指導案の作成にチャレンジして下さった園が多数ありました。来年度はその更なる発展が大いに期待されます。

ドキュメンテーションを用いた研修は、今年は、個々の紹介や検討といったことからさらに、グループワークにおいてディスカッションを重ねるなど、参加型で活動的な研修が企画されました。子どもの年齢ごとに分かれてドキュメンテーションを検討したり、一緒に相談しながら一つのを検討したり、たくさんのドキュメンテーションと一緒に考えたりなど多様な研修方法が試みられました。

本年度の研修で最も新しく画期的だと思われるものは、ビジョンの作成にあたり、すべての幼稚園、保育所そして、多くの小学校や中学校の教員が一緒になってワーキンググループを形成し、職種世代を越えて、育てたい舞鶴の子ども像について話し合い、乳幼児期に大切な教育保育の在り方についてのコンセンサスを得るにいたったことです。各地で有識者や組織代表が集まり机上で検討するビジョンとは異なり、舞鶴市のそれぞれの年齢の子どもたちの一番近くでその教育に携わっている0～15歳の子どもの次世代育成の専門職が連携し、ボトムアップで乳幼児期教育の在り方を検討しさらに共通認識を確認できたことは素晴らしいことであると思います。

舞鶴市は行政の素晴らしいリーダーシップそして各組織の熱意によって、全国から注目されるような研修開発を展開して下さっています。来年度の課題は、舞鶴市の育てたい子ども像の具現化をめざし、乳幼児期の教育の実践の質をさらに向上させていくことにあると思います。園校種公私の枠を越えて、参画型の研修による保育の質の向上がさらに広く進められていくことを期待したいと思います。

## 保育の質を考える

鳴門教育大学大学院 教授 木下 光二

平成27年度、本学附属幼稚園の研究テーマは、「遊誘財から豊かな遊びを創り出すためにⅠ」でした。保育の質の担保が求められている今、保育の質を遊誘財(環境)や遊びとの連関で見つめ直す試みです。今年度の研究紀要には舞鶴市岡田保育園の実践を取り上げ、保育の質について語らせてもらいました。保育の質の向上は、連携教育はもとより小学校教育の質の向上につながるものであり、保幼小双方の質が向上してこそ、充実したものとなります。

また、保育の質については、八雲保育園さんの研究発表原稿(平成28年2月12日京都府保育協会研修会にて発表 本事業をきっかけに自園で取り組まれた保育の質の向上について発表されたもの)も見せてもらいましたが、内容豊かに、保育の質や保育者の資質について語られています。今後ますます、舞鶴市の教育が充実発展することを期待しています。

本年7月2日に訪ねた際のエピソードである。登園してまもなく、幼児たちが朝の自由な遊びを開始した。園庭には、シャボン玉遊びができる教材や環境がほどよく整えられており、5歳児を中心に長い紐で大きなシャボン玉を作ったり、団扇の骨組みでたくさん飛ばしたりするなど、多様なシャボン玉作りに挑戦していた。



ふと見ると、小高く赤土を積み上げた場所で、女兒がしゃがんでシャボン玉を吹いていた。右手に市販のストロー、左手にシャボン玉液を入れたガラスコップを持っている。遠くから見ると、ごく普通のシャボン玉遊びだが、近づいてよく見ると、手にしているコップの中の液の色が茶色く濁っていた。すぐに女兒の足下にある少量の赤土を混ぜたことが理解できた。何を考えてそのような行為に及んだのかを尋ねてみると、「強いシャボン玉が作りたいたから」ということであった。なんとおもしろい着想であることか。私はこれまでシャボン玉液に赤土を混ぜたことは一度もなければ、見たことも聞いたこともない。幼児期の自由で柔軟な思考(試行)が、いかに大切であるか。

長いひもや団扇を使ってのシャボン玉作りは、道具をいかに扱うかが工夫となる。一方、赤土の混入は、シャボン玉液と赤土の2つを合成させ、あたかも、科学的な反応を期待する実験となっている。比較は難しいかもしれないが、先日、ノーベル医学生理学賞を受賞された北里大学の北村教授は、ゴルフ場の土から新種の放線菌を見つけ、多くの人々を救うべく新薬を作ることにたどり着く。発想や着想がきっかけとなり、興味や関心をふくらませ、実際に行為に及ぶことこそが、新しい発見や発明をもたらすことになる。女兒の赤土を混入させる行為の豊かさは、ここにあるのではないか。本エピソードに見られる赤土は、まさに本園の提唱する遊誘財となり得ている。

女兒のこのような行為を生み出したのは、単に赤土がそこにあっただからということではない。現状の保育に満足せず、保育の質を高めようと保育改善に努める姿勢が背景に流れている。園長先生によると、この園では、朝の登園後の時間は設定された活動であったが、1昨年の春から自由な遊びや活動に変え、それ以来、本エピソードのような創造的な遊びが生まれるようになってきたそうだ。その際に、保護者が園長先生に語った言葉、「園長先生、最近、保育園は何かを変えられましたか？子どもが、朝、とても楽しそうに保育園にでかけるようになりました」が、それを物語っている。それぞれの園に脈々と流れている歴史や文化を変えることは、並大抵のことではない。守らなければならないことがある一方で、変えなければならないことがあるのもまた事実である。子どもの幸せを願っての保育改善であり、質の向上であることを忘れてはならない。

〈鳴門教育大学附属幼稚園研究紀要第48集より〉

## 平成27年度 実施事業一覧

日時／参加者数	内 容	場 所
平成27年5月9日(土) 15:40～17:40  平成27年5月10日(日) 12:30～14:30	<b>事業発表「日本保育学会 第68回大会」</b> [ポスター発表] 研究テーマ:「家庭との連携と保育者の専門性 ～ドキュメンテーションの工夫～」 発表:神戸大学大学院 北野幸子 准教授 舞鶴市健康・子ども部子ども育成課 [学会企画課題研究会主催シンポジウム] テーマ:『質の高い保育は実現できるのか ～今、遊びを通じた保育が問われている～』 登壇者:日本保育学会課題研究委員7名 (神戸大学大学院 北野幸子 准教授 他)	椋山学園大学 (名古屋市)
平成27年5月14日(木)	<b>事業視察対応</b> (茨城県笠間市議会議員)	舞鶴市役所
平成27年5月23日(土) 13:00～14:30 約120人	<b>幼児教育・保育の質向上推進事業「幼児教育ビジョン策定懇話会に係る講演会」</b> ※幼児教育ビジョン策定懇話会と同時開催 講師:神戸大学大学院 北野幸子 准教授 講演「幼児教育・保育とは」 参加:市内保育所・幼稚園・小学校・中学校関係者、 幼児教育ビジョン策定懇話会委員	中総合会館 コミュニティ ホール
平成27年6月18日(木) 10:00～11:30 13:00～14:30 14:30～16:00 約50人	<b>[子どもを主体とした保育研修]</b> 指導:神戸大学大学院 北野幸子 准教授 1. 公開保育 2. カンファレンス 3. ドキュメンテーション研修 参加園から提出されたドキュメンテーションを元に、参加者・作者・講師 による質疑応答を行い、内容の深化を図った 参加:永福保育園、岡田保育園、さくら保育園、相愛保育園、平保育園、 タンポポハウス、なかすじ保育園、東山保育園、ルンビニ保育園、 八雲保育園、やまもも保育園、うみべのもり保育所、中保育所、西乳 児保育所、朝来幼稚園、倉梯幼稚園、橘幼稚園、舞鶴幼稚園、 吉原小学校 視察:日本保育学会課題研究委員会 委員	中保育所 西総合会館 3階 会議室
平成27年6月18日(木) 16:30～18:00	<b>[子どもを主体とした保育研修] 公開保育に向けた事前協議(園内研修)</b> 指導:神戸大学大学院 北野幸子 准教授	永福保育園
平成27年7月2日(木) 9:00～ 9:30 9:30～10:30 10:45～12:00 約30人	<b>[保幼小連携研修]</b> 指 導:鳴門教育大学大学院 木下光二 教授 1. 保育園見学 2. 岡田小学校・岡田保育園連携活動 公開授業・保育 3. カンファレンス 参加:岡田保育園、さくら保育園、平保育園、タンポポハウス、東山保 育園、ルンビニ保育園、八雲保育園、やまもも保育園、うみべのもり保 育所、中保育所、西乳児保育所、朝来幼稚園、倉梯幼稚園、三鶴 幼稚園、朝来小学校、岡田小学校、高野小学校、由良川小学校、 吉原小学校 視察:中丹教育局指導主事	岡田保育園
平成27年7月13日(月) 13:30～15:00 15:00～16:00 約50人	<b>[子どもを主体とした保育研修]</b> 指導:神戸大学大学院 北野幸子 准教授 1. 公開保育 2. カンファレンス 参加:永福保育園、岡田保育園、さくら保育園、平保育園、タンポポハウ ス、なかすじ保育園、東山保育園、ルンビニ保育園、八雲保育園、 やまもも保育園、うみべのもり保育所、中保育所、西乳児保育所、 池内幼稚園、三鶴幼稚園 視察:吉美保育園(綾部市)	永福保育園

日 時	内 容	場 所
平成27年8月8日(土) 13:20~16:30	<b>事業発表「第19回子どもと保育実践研究会 夏季全国大会」</b> 保育新時代の創造 Part1 実践提案&シンポジウム 「保育新時代の創造を支える研修」 ～保育実践・行政・研究に関わる人たちの協働と対話～ 発表:神戸大学大学院 北野幸子 准教授 舞鶴市健康・子ども部子ども育成課	玉川大学 (東京)
平成27年8月20日(木) 10:00~12:00	<b>[子どもを主体とした保育研修] 公開保育に向けた事前協議(園内研修)</b> 指導:神戸大学大学院 北野幸子 准教授	やまもも保育園
平成27年8月21日(金)  9:00~10:00 10:30~11:30 13:30~16:30 約50人	<b>[保幼小連携研修]</b> <b>舞鶴市小学校教育研究会生活科部夏季研究会保幼小連携研修会</b> 指 導:鳴門教育大学大学院 木下光二 教授 1. 保育園見学、講師解説・意見交換(講師・小学校教諭) 2. 幼稚園見学、講師解説・意見交換(講師・小学校教諭) 3. 保幼小連携研修会 ①講演「生活科を通じた保幼小の連携について」 ②グループワーク「生活科保幼小連携活動年間計画を作成してみよう」 ③グループワーク報告 ④講師指導・助言 参加:永福保育園、岡田保育園、昭光保育園、平保育園、タンポポハウス、東山保育園、ルンビニ保育園、八雲保育園、うみべのもり保育所、中保育所、西乳児保育所、朝来幼稚園、聖母幼稚園、橘幼稚園、舞鶴幼稚園、朝来小学校、余内小学校、岡田小学校、新舞鶴小学校、倉梯小学校、倉梯第二小学校、高野小学校、中筋小学校、明倫小学校、福井小学校、由良川小学校 視察:中丹教育局指導主事	岡田保育園 舞鶴幼稚園 西総合会館 文化情報 センター 第1会議室
平成27年 9月15日(火) 10:00~11:30 13:00~14:00 14:15~16:00 約50人	<b>[子どもを主体とした保育研修]</b> 指導:神戸大学大学院 北野幸子 准教授 1. 公開保育 2. カンファレンス 3. ドキュメンテーション研修(グループワーク) 助言:兵庫教育大学大学院 溝邊和成 教授 参加:永福保育園、岡田保育園、さくら保育園、平保育園、タンポポハウス、なかすじ保育園、東山保育園、ルンビニ保育園、やまもも保育園、うみべのもり保育所、中保育所、西乳児保育所、池内幼稚園、橘幼稚園	やまもも保育園 市政記念館 ホール
平成27年10月15日(木) 9:45~11:30 11:30~12:30 約30人	<b>[子どもを主体とした保育研修]</b> 指導:神戸大学大学院 北野幸子 准教授 1. 公開保育 2. カンファレンス 助言:兵庫教育大学大学院 溝邊和成 教授 参加:岡田保育園、さくら保育園、昭光保育園、相愛保育園、平保育園、タンポポハウス、東山保育園、八雲保育園、やまもも保育園、ルンビニ保育園、うみべのもり保育所、中保育所、西乳児保育所、倉梯幼稚園	タンポポハウス
平成27年11月11日(水)  9:45~11:30 13:00~14:30 14:30~16:15 約60人	<b>[子どもを主体とした保育研修]</b> 指導:神戸大学大学院 北野幸子 准教授 1. 公開保育 2. カンファレンス 3. ドキュメンテーション研修 (グループワーク) 参加:永福保育園、岡田保育園、さくら保育園、相愛保育園、平保育園、タンポポハウス、なかすじ保育園、東山保育園、ルンビニ保育園、八雲保育園、やまもも保育園、うみべのもり保育所、中保育所、西乳児保育所、余内小学校 視察:日本保育学会課題研究委員会 委員、伊丹市立こばと保育所	東山保育園 西総合会館 4階ホール

日時／参加者数	内 容	場 所
平成27年11月21日(土) 5:30～20:45 約40人  12:20～13:20 13:30～15:00  15:10～16:30	<b>幼児教育・保育の質向上推進事業現地研修会</b> 平成27年度鳴門教育大学附属幼稚園 幼児教育研究会参加 主題:豊かな遊誘財を創り出すために 1. 公開保育 2. 全体会 研究発表:鳴門教育大学附属幼稚園 杉山健人 研究主任 3. 分科会(保育説明・研究協議) ※保育キャリアや養成に携わる先生方の関心にあわせて参加 ①フレッシュ保育者部会(経験5年目くらいまでの保育者) 司会・コーディネーター 幼年発達支援コース 塩路晶子准教授 ②ミドル保育者部会(経験5年～10年くらいまでの保育者) 司会・コーディネーター 幼年発達支援コース 湯地宏樹教授 ③ミドルリーダー部会(主任や園の中核をになっている保育者) 司会・コーディネーター 教員養成特別コース 木下光二教授 ④リーダー部会(管理職など) 司会・コーディネーター 幼年発達支援コース 田村隆宏教授 4. 鼎談「育つ育てる保育の未来」 十文字学園女子大学 宮里暁美教授 鳴門教育大学名誉教授 佐々木宏子教授 鳴門教育大学附属幼稚園 佐々木晃園長 参加:岡田保育園、昭光保育園、平保育園、タンポポハウス、八雲保育園、ルビニ保育園、うみべのもり保育所、中保育所、西乳児保育所、朝来幼稚園、舞鶴幼稚園	鳴門教育大学 附属幼稚園・ 附属小学校 (徳島市)
平成27年12月1日(火) 9:40～10:50 11:00～12:00 約50人	<b>[保幼小連携研修]</b> 指 導:鳴門教育大学大学院 木下光二 教授 1. 朝来小学校・朝来幼稚園連携活動 公開授業・保育 2. カンファレンス 参加:岡田保育園、さくら保育園、平保育園、タンポポハウス、なかすじ保育園、東山保育園、ルビニ保育園、八雲保育園、うみべのもり保育所、中保育所、西乳児保育所、朝来幼稚園、池内幼稚園、倉梯幼稚園、三鶴幼稚園、朝来小学校、岡田小学校、志楽小学校、新舞鶴小学校、高野小学校、中筋小学校、吉原小学校、与保呂小学校	朝来小学校
平成27年12月2日(水) 12:00～13:20 14:25～15:20 15:30～16:00 約40人	<b>[子どもを主体とした保育研修]</b> (舞鶴幼稚園自主研究) 指導:兵庫教育大学 鈴木 正敏 准教授 1. 公開保育 2. 実践報告、質疑応答 3. 指導助言 参加:永福保育園、岡田保育園、さくら保育園、うみべのもり保育所、中保育所、西乳児保育所、朝来幼稚園、倉梯幼稚園、ひばり幼稚園、綾部市立東八田幼稚園・綾部幼稚園、福知山市立福知山幼稚園、岡田小学校、志楽小学校、中筋小学校、福井小学校、明倫小学校	舞鶴幼稚園
平成27年12月25日(金) 10:00～16:30	<b>他市事業研究「学びをつなぐ希望のバトンフォーラム2015」</b> 参加:舞鶴市健康・子ども部子ども育成課 舞鶴市教育委員会	福井県立大学 交流センター (永平寺町)
平成28年1月14日(木) 14:30～17:00	<b>事業発表「平成27年度第2回中丹地域保育所(園)・幼稚園・小学校連携推進会議」</b> <b>[実践報告]「0歳から15歳までの切れ目ない質の高い教育の充実に向けて～舞鶴市乳幼児教育ビジョン策定～」</b> 発表:舞鶴市健康・子ども部子ども育成課 舞鶴市教育委員会	京都府綾部総 合庁舎 第1会議室



日時／参加者数	内 容	場 所
平成28年1月15日(金) 16:00～17:00	<b>実践報告会開催に係る事前打ち合わせ会[保幼小連携研修]</b> 公開園・校による報告書及び報告会における内容の協議 参加:岡田保育園、朝来幼稚園、朝来小学校、岡田小学校、 小学校教育研究会生活科部	舞鶴市役所 413会議室
平成28年1月21日(木) 15:00～17:00	<b>実践報告会開催に係る事前打ち合わせ会[子どもを主体とした保育]</b> 公開園による報告書及び報告会における内容の協議 参加:永福保育園、タンポポハウス、東山保育園、やまもも保育園、 中保育所、舞鶴幼稚園	うみべのもり保 育所
平成28年1月23日(土) 9:00～12:30	<b>事業発表「第53回横浜市幼稚園教育研究大会 第55回神奈川県私立幼稚園教育研究横浜地区大会」</b> シンポジウム「保育の質をどう高めていくか ～実践を開いていくこと・園内研修を工夫すること～」 シンポジストとして参加:神戸大学大学院 北野幸子 准教授 舞鶴市健康・子ども部子ども育成課	神奈川県民 ホール (横浜)
平成28年2月20日(土) 13:30～16:40 約150人	<b>幼児教育・保育の質向上推進事業 平成27年度「実践報告会」</b> 講演・指導:神戸大学大学院 北野幸子 准教授 1. 乳幼児教育ビジョン報告(事務局) 2. 研修実践報告 ①「子どもを主体とした保育」 実施報告[事務局] 公開保育報告(実施園代表) [永福保育園、タンポポハウス、東山保育園] ②「保幼小連携」 実施報告[事務局] 公開授業・保育報告(実施校・園代表) [朝来小学校、朝来幼稚園、小学校教育研究会生活科部] ③「ドキュメンテーション」 実施報告[事務局] 3. 講評 ＜ドキュメンテーションの掲示＞ 永福保育園、岡田保育園、さくら保育園、平保育園、タンポポハウ ス、なかすじ保育園、東山保育園、ルンビニ保育園、八雲保育園、や まもも保育園、うみべのもり保育所、中保育所、西乳児保育所、舞鶴 幼稚園 参加:永福保育園、岡田保育園、さくら保育園、タンポポハウス、なかすじ 保育園、東山保育園、ルンビニ保育園、やまもも保育園、うみべの もり保育所、中保育所、西乳児保育所、朝来幼稚園、池内幼稚 園、シオン幼稚園、聖母幼稚園、森の子ら幼稚園、舞鶴幼稚園、朝 来小学校、岡田小学校、高野小学校、由良川小学校、吉原小学 校 視察:福井県、福井県幼児教育支援センター、福井市藤島幼稚園、 青郷保育所、高浜保育所、和田保育所	舞鶴商工観光 センター コンベンション ホール
平成28年3月7日(月)	<b>事業視察対応(福井市)</b>	舞鶴市役所

研修事業参加のべ人数：約720人

園長会においても、乳幼児教育の質の向上に向けて、研修を実施されました。

平成27年12月14日(月)～15日(火) 舞鶴民間保育園連盟 園長会研修 視察見学園:神戸大学附属幼稚園